



## 市川レポート

## テクニカル分析上は過去最高値までの戻りが視野に入った日経平均株価

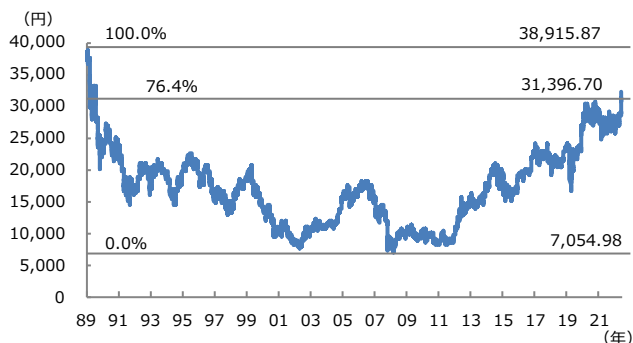
- 日経平均はフィボナッチの76.4%戻しを突破し、過去最高値38,915円87銭への戻りが視野に。
- 幅はあるが長期上昇トレンドが示す6月末頃の下値目途は27,250円、上値目途は33,550円。
- 長期上昇トレンド継続でも過去最高値まで数年か、上昇トレンド継続のカギは業績相場の形成。

## 日経平均はフィボナッチの76.4%戻しを突破し、過去最高値38,915円87銭への戻りが視野に

日経平均株価は6月5日、32,217円43銭で取引を終え、1990年7月20日以来となる約33年ぶりの高値をつけました。また、前営業日からの上げ幅は693円21銭に達し、今年最大となりました。5月18日付レポートでは、テクニカル分析を用いて、日経平均の上値目途を解説しましたが、上昇が続く日経平均の足元の動きを踏まえ、改めて上値の目途を確認してみます。

日経平均の過去最高値は1989年12月29日の38,915円87銭、過去最安値は2009年3月10日の7,054円98銭です（終値ベース）。この下げ幅（31,860円89銭）から、「フィボナッチ・リトレースメント」で目安とされる「76.4%戻し」は31,396円70銭で、ここが1つの上値目途でした。ただ、日経平均は6月2日の終値（31,524円22銭）でこの水準を超えたため（図表1）、過去最高値までの「100%戻し（全値戻し）」が視野に入りました。

【図表1：日経平均株価のフィボナッチ・リトレースメント】



(注) データは1989年12月1日から2023年6月5日。フィボナッチ・リトレースメントは相場が反転（反落）した場合、戻り（押し）の目安をみる上でよく用いられるテクニカル分析。高値（安値）から安値（高値）までの下げ幅（上げ幅）から23.6%、38.2%、50.0%、61.8%、76.4%戻した（押した）水準を目安と考える。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【図表2：日経平均株価の長期上昇トレンド】



(注) データは2012年1月から2023年6月。ローソク足は月足。2023年6月は5日まで。上値抵抗線は2013年5月高値と2018年1月高値を結んだ線。下値支持線は2012年10月安値と2016年6月安値を結んだ線。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

## 幅はあるが長期上昇トレンドが示す6月末頃の値目途は27,250円、上値目途は33,550円

次に、日経平均の「長期上昇トレンド」に目を向けます。長期上昇トレンドは、2012年10月安値と2016年6月安値を結んだ「下値支持線」と、2013年5月高値と2018年1月高値を結んだ「上値抵抗線」で形成されています（図表2）。日経平均はここ10年ほど、おおむね長期上昇トレンドに沿って推移しており、足元の株高もこのトレンド内の動きです。そのため、上昇ペースはかなり速いものの、上昇の動き自体に違和感はありません。

長期上昇トレンドを形成する下値支持線と上値抵抗線は、6月末時点でそれぞれ27,250円と33,550円に位置しています。そのため、6月末近くにおける日経平均の下値目途は下値支持線の27,250円、上値目途は上値抵抗線の33,550円とみることができます。長期トレンドのため、上下の幅はかなりありますが、その分、仮に日経平均が今月中に30,000円台まで大幅な調整が進んでも、長期上昇トレンドは不変と解釈されます。

## 長期上昇トレンド継続でも過去最高値まで数年か、上昇トレンド継続のカギは業績相場の形成

前述の通り、フィボナッチ・リトレースメントは、日経平均の過去最高値（38,915円87銭）までの全値戻しを示唆しています。そこで、全値戻しの達成時期について考えてみます。長期上昇トレンドを形成する下値支持線と上値抵抗線を、単純に数年先まで延長してみると、上値抵抗線は2026年6月末に38,950円へ到達し、上値抵抗線と下値支持線の中央線は2028年3月末に38,950円へ到達します。

これは長期上昇トレンドの継続を仮定した1つの目安ですが、長期上昇トレンドは日銀の異次元緩和に起因する「金融相場」に支えられている面も大きいため、日銀の政策変更時には特に注意が必要です。ただ、ここから先、国内企業の資本効率改善と稼働力が高まっていけば、金融相場にかわって「業績相場」が長期上昇トレンドを支え、日経平均の過去最高値までの全値戻しに対する期待が続くことも想定されます。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。■当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号

加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会